



T A M A E
W A T A N A B E

—— 渡邊 たまえ



渡邊 たまえ | TAMAE WATANABE

1990年 東京藝術大学美術学部彫刻科卒業

1999年 ニューヨークマンハッタンに1年間滞在アートの学生グループに在籍

帰国後銀座ギャラリーオカベ、銀座番町画廊、ギャラリー澄光など個展開催

| 略歴 |

2010年

東京都西部にアトリエWSTUDIOを構える

2012年

ドイツ文化会館ホワイエにて"SHARING"展開催

2007年 - 2011年

日本建築美術工芸協会"卯月展"参加 六本木画廊二人展、岐阜県立美術館"岐阜DNA展"、いりや画廊"壁展11m²の彫刻展"などグループ展多数参加

2015年

フランスパリに1年間滞 パリのギャラリーGalerieSatellite "Severo,ShinjiWatanabe,TamaeWatanabe"三人展開催

2016年

アトリエ WSTUDIO "フランス帰国二人展"開催

2019年

B gallery 個展

2021年

パリのギャラリー Galerie Satellite 個展

ギャラリー澄光二人展 旅について

2022年

ガーデンテラス紀尾井町 個展 (いりや画廊)

ひととどうぶつのすまうところ

幼少期には粘土遊びや砂場遊びが大好きだった渡邊たまえは今でも彫刻家として人を作り、動物を作り、景色を作る。制作は特別なことではなく幼少期から今も変わらず続けてきた自身の自然な時間の流れの上に成り立っており、いいなと感じてくれる人がいることが不思議でとても嬉しいと渡邊は感じている。手を通じて出きた作品は彼女そのものであり、その作品の姿は生まれた時から変化する中で重なりながら、積み上げられた自身の心模様である。こね回している間にストーンと姿を表す形態を、「今回はこおなったか・・・」と、渡邊は完成物のあらゆる要素を受け入れることで、その時々自身の心模様が視覚化されることを楽しんでいる。人は制作も含め、その時々人生の階段を登ったり降ったりを繰り返す。とどのつまり人生に目的などないのだと思ったりしながら渡邊たまえは一生を通して制作を続けるのかもしれない。

いりや画廊学芸員 園浦眞佐子



[馬使い]
テラコッタに着色・鉄・金箔 / H128×W60×D52(cm)



[かすがいの馬]
テラコッタに着色・金箔 / H85×W95×D27(cm)



[家の馬]
テラコッタに着色・金箔 / H85×W98×D28(cm)



[白いやぎ]
テラコッタに着色 / H52×W68×D28(cm)



[ネコのみら]
テラコッタに着色 / H33×W18×D25(cm)



[大きな犬小屋]
テラコッタに着色・金箔 / H40×W23×D30(cm)



[ふわり]
テラコッタに着色・木 / H90×W42×D20(cm)



[dentelle(レース)]
テラコッタに着色・金箔 / H45×W29×D30(cm)



会場風景